



ここまでの悪天候により炭そ病等の感染拡大が心配されます。二次感染防止のため、被害果を見つけ次第、園地外へ運び出す等の対策を講じてください。尚、シンクイムシ類の被害が断続的に発生しています。次年度へ越冬防止のため、被害果を見つけ次第、水没処理等を実施してください。9月残暑が予想されています。秋季の各種病害虫防除のため、引き続き一定の間隔で定期散布を進めてください。

りんご

9月上旬の薬剤散布

◆ 散布日：9月 日

◆ 散布量： リットル

散布時期： 9月5日～10日（前回散布から15日後）

散布薬剤： 水 100 リットル

展着剤 10ml

ストライド顆粒水和剤 66g（前日、3回） *注意事項②参照

ダントツ水溶剤 25g（前日、3回） *注意事項③参照

対象病害虫：炭そ病、すす点・すす斑病、褐斑病、斑点落葉病、シンクイムシ類、カメムシ類
キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、コナカイガラムシ類、リンゴワタムシ

散布量：10アール当たり 600 リットル

〔注意事項〕 *必ずお読みください。

- ① 病害感染防止のため、連続降雨前に散布する。
- ② ストライド顆粒水和剤は高温時（30℃以上）に散布すると薬害（葉焼け他）を生じる恐れがあるので、涼しい時間帯に散布する。
- ③ シンクイムシ類対策：被害が目立つ場合は、ダントツ水溶剤の使用倍率を2000倍（100リットル当たり50g）に引き上げる。
- ④ 園地の外周等死角がないように、散布量は多めに設定する。また、過繁茂園では、薬液が樹内部まで到達するよう徒長枝切りや支柱立て等を散布前に実施する。

◆ 中晩生種の栽培管理については次頁をご覧ください。

りんご中晩生種栽培管理について



平成 29 年
JA 中野市園芸課

下記の内容を参考にして、中生種以降の栽培管理を進めてください。尚、栽培地域や土壌条件（排水性）等の外的要因でも管理時期等が変わってきます。詳細につきましては、園芸課技術担当までお問い合わせください。

🍎 千秋の管理について

1. 除袋時期 9月上旬まで
2. 落果防止 ストッポール液剤 1000 倍
9月5頃に散布（展着剤は加用しない）
*野菜や他品目には絶対かけない（薬害発生防止）
3. 収穫予想 9月20日頃～

🍎 秋映の管理について

1. 葉摘み方法 9月10日過ぎに果実密着葉のみ軽く摘む
（葉の跡がつかない程度の軽い葉摘み）
2. 落果防止 ストッポール液剤 1000 倍
9月10～15日頃に散布（展着剤は加用しない）
*野菜や他品目には絶対かけない（薬害発生防止）
3. 解禁予想 10/2頃（成熟調査を経て、収穫解禁日を設定します）

🍎 ジョナゴールド・世界の管理について

1. 除袋時期 9月10日～15日頃
2. 落果防止 ストッポール液剤 1000 倍
9月10～15日頃に散布（展着剤は加用しない）
*野菜や他品目には絶対かけない（薬害発生防止）
3. 収穫予想 ジョナゴールド：10月5日頃～
世界一：10月2日頃～

【落花防止剤使用上の注意点】

- ① 落果防止剤ストッポール液剤は収穫開始予定日の15～25日前に1回散布が基本です。
- ② 散布の際は、展着剤使用しないでください。また、使用規制収穫7日前を厳守してください。（最新情報やラベル等を良く確認してください。）
- ③ 落果防止剤の「ストッポール液剤」は、土壌乾燥条件では効果が低下します。9月以降土壌乾燥状態が続く場合は、適度なかん水を実施し、園内の湿度を上げてからから散布してください。

🍎 紅玉の管理について

1. 落果防止 ストッポール液剤 1000 倍
9 月 10～15 日頃に散布（展着剤は加用しない）
*野菜や他品目には絶対かけないこと（薬害発生防止）
2. 収穫予想 10 月 2 日頃～

🍎 半無袋（ワックス袋）ふじの除袋について

1. 除袋時期 9 月 15 日～20 日頃までに
2. 注意点 極端な高温（強日照）が続く場合は、上記の日程より遅らせる。
園地場所や土質によっても違います。詳しい時期は担当技術員まで
お問い合わせください。

🍎 シナノスイートの管理について

1. 芯かび果除去 8 月下旬～9 月 15 日頃
①異常に地色の抜けた果実の除去。
②早期着色果実の除去。
③本格的な着色期を迎える前に積極的に実施する。
2. 葉つみ方法 着色が始まったら葉つみを行なう。（着色前には行なわない）
3. 収穫予想 南部地帯 10 月 7 日頃～、北部地帯 10 月 12 日頃～
果肉成熟が進む事が予想されます。果肉鮮度を重視して収穫を進めてください。

🍎 シナノゴールドの管理について

1. 落果防止 ストッポール液剤 1000 倍
9 月 25 日～30 日頃に散布（展着剤は加用しない）
*毎年落果のない場合（園）は必要なし
*野菜や他品目には絶対かけない（薬害発生防止）
2. 収穫予想 南部地帯 10 月 15 日頃～、北部地帯 10 月 20 日頃～
中長期的な貯蔵が可能な熟度での収穫を徹底してください。

